

別紙 2

身延町総合計画策定町民ワークショップ開催報告書 ②

第2回開催報告

1. 開催概要

開催日時：2025年10月27日（月）15：00～

開催場所：中富総合会館

参加者数：40人（21人（町民）、19人（役場職員））

2. 第2回の位置づけ

テーマ：「10年後を見据えた身延町の将来像を検討する」

目的：総合計画に掲げる将来像を検討。第1回WSの結果から設定した分科会ごとに分かれ、町民アンケートの結果等を参考にしながら各分野における未来の方向性を見出す。今回は、役場職員も参加。

3. 実施内容

- 3.1 前回WSの振り返り
- 3.2 町民アンケート結果の概要説明
- 3.3 分科会に分かれてグループワーク

4. グループワーク

- 4.1 グループ討議：アンケート結果から抽出した情報を基にペルソナ設定
- 4.2 グループ討議：ペルソナが日々の生活で困っていることを洗い出し
- 4.3 グループ討議：困りごとが解決した先の、未来の方向性を検討
- 4.4 グループ討議：出来上がった未来像を眺めてキーワードを発見

5. 意見のまとめ（各班）

各班から出された内容およびキーワードは以下のとおり。

また、それらをもとに導き出された分野別将来像のイメージ図と、将来像を示す表現も併せて記載している。

5.1 1班【自然・環境・文化・伝統】

■ 設定したペルソナ内容

名前：身延 太郎

性別：男性

年齢：65歳

職業：パート、週3日程度農業

勤務地：シルバー人材センター（自家用車で通勤）、農業

家族構成：

- ・ 妻：60歳、パート（下部温泉）
- ・ 母：80歳、週3回デイサービスに行っている。
- ・ 長男：30歳、結婚して町外に在住。妻、子どもがいる。

趣味

- ・ 文化協会に所属しサークル活動（合唱：担当はBASS）をしている。

困っていること、悩んでいること等

- ・ 鳥獣被害がある。
- ・ 空き家に獣が住んでいるケースもある。
- ・ 地域行事が減っている。
- ・ 地域行事の後継者がいない。
- ・ 地域役員年数が長くなってしまう。
- ・ 周りに空き家が増加している。
- ・ 町営住宅の家賃が高額になってしまうケースもある。所得金額が高いと住めなくなる。
- ・ 長男に帰ってきて欲しいが、就職先と住居がない。

■ ワークショップで話し合われた内容

農家をやっている人が多いが、鹿、イノシシなどに農作物が荒らされ、獣害も多く出ている。また空き家も近所に多くあるため、鹿などがそこに住んでいるケースもある。対策としては、山林を整備したり、里山整備の補助金を出して対策をしていくことが必要ではないか。また、農業は高齢になっても続けられるので、健康寿命へ貢献できるのではないか。

地域の祭りや伝統行事について、地区に若い人はあまりいないので、年寄りを中心となり、なんとか維持しているところも多い。ただし、コロナ禍に一度中止してそのまま再開できていないケースもある。地域行事の後継者がいないところも多く、今後は行事や祭りは消滅し

■ WSで協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図



■ 将来像を示す表現

- ・ 自然と人が共生し、安心して暮らせるまち
- ・ 文化が息づく、移住者と共に築く活気ある町

5.2 2班【地域活動・コミュニティ・行政経営】

■ 設定したペルソナ内容

名前：望月 太郎

性別：男性

年齢：40代

職業：会社員

勤務地：町外（南アルプス市 はくばく（通勤40分））

家族構成：両親、妻、子2（小5、中1）の6人家族

その他：仕方なくUターン／家は二世帯同居

困っていること、悩んでいること等

【日常生活について】

- ・ 子どもの送迎
- ・ 交通網が脆弱
- ・ 子ども同士が休日に遊ぶことができない
- ・ 休日は地域活動（草刈りなど）や農業に仕方なく参加

【飲食・娯楽について】

- ・ 町内に食事するところ、遊ぶところが少ない
- ・ ちょっと飲みに行けない、ちょっとコーヒーを飲めるようなところがない
- ・ 昔ながらのお祭りはあるけど、若者が集まれるような魅力的なお祭りがない

【行政経営について】

- ・ 図書館が利用しづらい
- ・ 土日は行政が休みで手続きができない

■ ワークショップで話し合われた内容

身延町の中心に位置する下山エリアに、教育（塾やスポーツクラブ）や福祉関係のサービスが集約し、多目的施設を建設する。機能が集約されることで、バスでの送迎が可能になったり、家庭同士で交代して送迎できるようになる。子どもの送迎負担は身延町に暮らす子育て世帯にとって大きな課題だが、協力し合うことで負担も軽減され、子どもの繋がりから大人にも交流が生まれていく。

また、福祉関係のサービスも集約されるため、子どもから老人まで幅広く町民が集うようになり、下山エリアが町の拠点（ハブ）として確立する。

さらに、下山エリアで生まれたコミュニティを町全体へ波及させる仕掛けとして、キッチンカーや屋台が各地域へ出張する。週替わりで地域を巡回することで、自宅近くで気軽に飲食できるイベントが町のどこかで毎週開催されるようになる。イベントにはその地域の周辺住民がメインで集まり、そこにも新たな出会いが生まれて、個人同士でも「無尽」が多く結成されるようになる。

地域内で「顔の見える関係」が深まることで、草刈りなどの地域活動にも積極的に参加する人が増え、住民一人一人が責任ややりがいを感じながら地域を支えていく。

■ WS で協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図



■ 将来像を示す表現

- ・ 人と人とのつながりが育む、安心と活力のまち
- ・ 出会いと支え合いでつくる、笑顔あふれるまち
- ・ ひと・まち・未来がつながる、協働のまち

5.3 3班【産業・農業・観光】

■ 設定したペルソナ内容

名前：小林 好子（千葉県出身）

性別：女性

年齢：48歳

職業：パート（事務）

勤務地：中央市田富地区（町外）

家族構成：

- ・ 夫：介護職
- ・ 長男：大学生、県外の私立大学に在学中
- ・ 長女：高校生
- ・ 義理の両親は同一敷地だが、別の建物に居住

困っていること、悩んでいること等

- ・ 夜、ご飯を食べに行ったりする場所がない。飲みに行きたいが帰る手段もない。
- ・ 町内にあまり仕事がなく、また選択肢も少ないこと、田舎で知り合いが多いことなどから、町外まで仕事に行っている。
- ・ 買い物できる店が少なくて不便。
- ・ 子ども（娘）の送り迎えが大変。
- ・ 車が必要不可欠。
- ・ 同世代が少ない。
- ・ 息子が県外の私立大学に行っているので、お金がかかる（ことが働き続けている理由）。
- ・ 子どもの将来（町内に就職先がない）

■ ワークショップで話し合われた内容

地域活動等への参加者はほぼ男性なこと、地域に女性の意見を聞く雰囲気がないことなど女性にとってのコミュニティが作りづらい状況にあるのではないかと。特に子どもが中学校を卒業してしまうと、周囲の同年代の女性と疎遠になってしまっている現状がある。

また、町内の雰囲気として、男性中心な部分が見られ、女性が自由な活動（起業、望む仕事につくなど）をしづらい雰囲気があると考えられる。女性が「本人がやりたい仕事」を町内でできるようにするための仕組みが作れないか。

一方で、町内の事業所数が減少傾向にあり、経営者の大半が高齢者であり、数年後にはさらに大幅に事業所数が減る見込みである。町内の事業所の事業承継もすぐに取り組まなければならない課題である。そこで、後継者のいない事業所と就労したい人の橋渡し・マッチングをしてみてもどうか。事業所数の減少防止と女性のやりたい仕事のサポートの2つをかなえる取り組みとなる。

町内の事業所について SNS などを通じて情報発信・情報提供を行い、起業したい方ややりたい仕事を見つけた方と現在の経営者などのマッチングが行われ、事業が継続している。

農業分野（あけぼの大豆など特産品）においても同じようにマッチングを行う（引退したい農業者と就農したい人）。女性が様々な分野で挑戦する場を準備することで、女性がイキイキと仕事をする、生きがいを持って生活している町をつくっていく。

また、町の中高生たちに、町内の魅力ある企業・仕事について紹介する場を設ける。就職を考え始める時期に紹介しても手遅れの場合もあるため、高校生と大学における就職活動の前である21歳の際に、SNSなどで情報を提供するとともに、職業体験（例：温泉旅館の女将体験や気になるお店、例えば和紙など伝統工芸の仕事体験など）をして、将来町内での就職について考えてもらう機会とする。



■ キーワード

女性の活躍、# 事業承継、# 起業サポート、# 就農サポート

- WS で協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図（上：ChatGPT、下：Copilot）



- 将来像を示す表現
 - ・ 挑戦する人をサポートするまち
 - ・

5.4 4班【福祉】

■ 設定したペルソナ内容

名前：みのぶ まちこ

性別：女性

年齢：65歳

職業：パート（オギノで週3でレジ打ち）

勤務地：町内

家族構成：夫と2人暮らし 近くに義父母がいる

・ 子どもが2人 長男は都内に就職 長女大学生で都内で一人暮らし
困っていること、悩んでいること等

- ・ 将来の自分たちの生活
- ・ 移動手段がとにかかない（車が無いと移動が難しい、お店や病院も遠い）
- ・ 買い物、病院への車以外の移動手段
- ・ 両親の介護、働きながらの介護
- ・ 自分の時間が無くなるのではないか
- ・ 夫退職後の収入
- ・ 長女の学費

■ ワークショップで話し合われた内容

将来の自分たちの生活を想像したときに、買い物とか病院への車以外の移動手段がとにかなくて困ってしまう。今もバス等もあるけど電車との時間が合ってなかったり、使い勝手あまりよくないと感じている。今後そういった公共交通の使い勝手やタクシー券などの補助ももっとしてほしい。

別の解決手段としてコミュニティの活用も考えられる。趣味の仲間でコミュニケーションをとることも、高齢でも健康であるためには重要で、生きがいにもつながっていく。身延町では ZUMBA なんかもやっているけど、ご高齢の方も元気に参加していて、そういったコミュニティで買い物とか助け合えばいい。ただ、一つのコミュニティだけですべてを賄おうとすると、それぞれの負担が大きくなってしまいますので、多様なコミュニティに属して、それぞれのコミュニティで、これについてはここで助け合って、これについてはここ、といったように、一つに頼り切らずに負担感を減らすことも大事だと考えている。

既存のインフラも活用しつつ、使い勝手の良いように再整備してすることやコミュニティの活性化で、解決していけたらいい。



- キーワード
#生きがい、#多様なコミュニティ、#高齢でも健康、#免許返納
- WSで協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図



- 将来像を示す表現
 - ・ いつでも、どこでも、みんなで移動できるスマートタウン
 - ・ 多世代がつながり、生きがいを育む共創のまち
 - ・ 支え合いの輪が広がり、誰もが安心して暮らせるまち

5.5 5班【生活の利便性・暮らしやすさ】

■ 設定したペルソナ内容

名前：佐野滋朗

性別：男性

年齢：33歳

職業：契約社員

勤務地：町内

家族構成：祖母、父、母、妹、犬（雑種）

既婚・未婚：未婚

困っていること、悩んでいること等：

● スポーツなどの身体を動かすことについて

<スポーツ施設が整っていない>

- ・ボルダリングがしたいが町内に施設がなく中央市までいかないといけない

<施設の使用料が高い>

- ・スポーツジムに通いたいが高料金（契約社員だから賃金が低い）

<仲間がいない>

- ・サッカーをしたいがチームがなく町外まで行かなければならない
- ・自分と同年代が少ない→趣味（バスケなど）を共有したいができない

● 負担、やりたいことができない

<地域活動の負担>

- ・自分に近い年代（少し上の年代）が何もしてくれない→だから自分がすべてしなければならない
- ・消防団員が少なく負担が多い

<同年代が少ない>

- ・周囲に同年代がいない→人が少ないのでできることが限られる。
- ・祭りへの参加者が少なく、特定の人への負担が増大。祭りそのものの存続が危うい

● 不安

<寂しい…不安>

- ・婚期を逃した
- ・出会いがない

→結婚できるか心配。将来が見えない。

<人気（ひとけ）がない不安>

- ・室外機などの盗難あり。不審者が来た時に対応できない。
- ・横断歩道の線が薄く散歩に出る祖母が心配

<安定した時間と収入がない>

- ・自分が地域活動をしているため、（そちらに時間がかかって）仕事が不安定。
→将来が心配。
- ・地域活動に参加したいが時間が取れない（収入が不安定）

● 飲食店

<お酒を提供する店が少ない>

- ・夜出かけたが近くに店がない
- ・飲食店を含め店が少ない→コミュニケーション（飲むにケーション）が不足する
- ・夜帰る時に寄れる店がない
- ・お店がない。車でないと店まで行けない
- ・飲食店が少ない
- ・日常集まれる場所がない
- ・行事後の反省会、二次会等ができない
- ・結果、家で飲むことが多く、不摂生が続いている。お腹周りが気になってきた
→身体を動かすことについての困りごとにつながる悪循環

■ ワークショップで話し合われた内容

町に対する誇りと愛着がある住民は、地域活動に積極的に関わりたいという思いを持っている。そのためには、経済的・時間的なゆとりが必要である。町内での雇用創出には限界があるため、「仕事は町外・暮らしは町内」というすみわけが進む。町外で安定した職に就き、十分な生活基盤を持つことで、地域活動への精神的な余裕が生まれる。このような暮らし方を支えるため、通勤交通の利便性向上や在宅勤務・副業を可能にする通信環境の整備などが進み、町と町外の往来がよりスムーズになる。町外で得た人脈や経験を地域に活かすことで、近隣町と連携した活動が生まれ、地域の活力が高まる。人とのつながりが広がり、仲間や出会いが増えることで、結婚や将来への不安が軽減し、支え合える暮らしが実現する。祭りや地域行事もこうした人の輪によって継続・復活し、地域通貨（祭り地域券など）の活用により、地域経済と住民の関係がより強まる。

また、飲食店や商店なども、曜日限定営業や共同送迎サービスなどの柔軟な働き方支援が進み、その日だけは「みんなが外に出て交流する日」として定着する。こうした暮らしの選択肢が広がるまちが、住み続けたいまちとして次世代へと受け継がれていく。



■ キーワード

#絆、#飲（飲めるところ楽しめることに特化）

■ WSで協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図



■ 将来像を示す表現

- ・ 町への愛着を持ちながら、安心して暮らし、働き、地域に関わることができるまち
- ・ 暮らしの選択肢が広がるまち
- ・ 経済的な安定と温かい地域のつながりが調和する「ひらく町」

5.6 6班【教育・子育て】

■ 設定したペルソナ内容

名前：下山かおる

性別：女性

年齢：42歳

職業：パート（9：00～17：00勤務）

勤務地：セルバ（町内）

家族構成：

- ・ 夫：45歳、会社員（町外）、車で通勤（1時間）
- ・ 長女：15歳（中3）、吹奏楽部、高校受験を控えて塾に通っている。塾帰りは父親と一緒に帰宅。
- ・ 長男：11歳（小5）、サッカークラブ所属、サッカーがないときは学童を利用。

困っていること、悩んでいること等

① 妻の悩み

- ・ 子どもの習い事などの送迎で、自分の時間が取れない。
- ・ （子どもの）病院が遠く、時間がかかる。
- ・ 子どものやりたいことが近くで出来ないのが不満（高校で吹奏楽をやりたいなど）。
- ・ 子どもが遊びに行く場所が近くにない。
- ・ 近くに学習塾がない。
- ・ 夫が通勤に時間がかかり、帰宅時間が遅いことが不満。

② 夫の悩み

- ・ 平日の消防団の活動が大変。
- ・ 週末はゆっくり休みたいが、地域行事があるので大変。

③ 子どもの悩み

- ・ 普段遊べる広い場所がほしい。
- ・ 子どもだけで遊びに行ける場所がない（親と一緒になければ行けない）
- ・ 長女が行きたい高校が近くにない。
- ・ 同い年の子どもが近くにいないので、週末や夏休みは家にいることが多い。

■ ワークショップで話し合われた内容

広域での道路交通網の整備が進み、身延線の増便や自治体間のバスの乗り継ぎなどの効率化や交通費の無償化などにより、町内外の学校への通学手段が増える。それにより、自分が行きたい学校に通うことが出来るようになる。

母親にとって、子どもの通学や習い事のため、自宅から最寄り駅までの送迎が負担であったが、オンデマンド交通（自動運転）により、送迎の負担が減る。また、地域の児童館などで、様々な習い事が増え、子どもたちが選べるようになる。

若者や働く世代など、同世代のつながりをつくる機会が増えて、相互に連携・協力しなが

ら地域活動を行うことが出来るようになったことで、負担が軽減する。

子どもたちのスペースなどの活動についても、地域で指導者が育成されたことで、活動が活発になる。また、そのための送迎についても、オンデマンド交通などの支援の仕組みが充実する。

病院までの移動が課題であったが、医療についてはオンライン診療により、通院の負担が軽減される。また、働く場所についても、リモートワークが充実したことで、町内にいながらインターンシップに参加したり、働くことができる機会が増えたことで、若者が地域に定着するようになる。



■ キーワード

交通網の充実、# デジタル・DX の活用、# 地域内交流

■ WS で協議された内容から導き出された分野別将来像のイメージ図



■ 将来像を示す表現

- ・ 子どもが伸び伸びと成長できるまち
- ・ 未来を拓く子ども・若者が生き活きと暮らすまち
- ・ 子どもの「やってみたい（夢）」を応援するまち（地域だけでは難しいが、町外との連携により、子どもの希望を叶えることを目指す。また、（施策により）子どもの夢を実現する機会を設ける。）